

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4079200285		
法人名	株式会社ケアシステム		
事業所名	グループホーム香春		
所在地	田川郡香春町香春776-2		
自己評価作成日	平成27年11月11日	評価結果確定日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaisokensaku.jp/40/index.php?action=kouhyou_pref_search_keyword_search=true">http://www.kaisokensaku.jp/40/index.php?action=kouhyou_pref_search_keyword_search=true</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社アール・ツーエス		
所在地	福岡県福岡市博多区元町1-6-16	TEL:092-589-5680	HP: <a href="http://www.r2s.co.jp">http://www.r2s.co.jp</a>
訪問調査日	平成27年11月18日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】(Altキー+enterで改行出来ます)

職員の人数を増やし、行き届く介護を心がけています。その他は地域との繋がりを大切にして、日常の支援からリハビリまで力を入れ、身体能力の低下防止に努めています。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

雄大な山を望み「グループホーム香春」は開設以来11年を迎えた。入居者や職員はそのままだが、昨年から運営法人の体制が変わり、新たに地域との関わりを強化し、行事の開催にも積極的に取り組むようになっており、今年は初めてソーメン流しを行い、近所の理髪店にも行くようになった。母体法人の系列で障害者施設も運営しており、将来的には一体的な協力を計画している。入居者一人当たりの人員配置も手厚く、非常勤の看護師は人員規定外で、各ユニットの健康管理などを担っている。新しい代表の指導のもと、声掛けや事例共有体制も強化し、積極的にスキルアップや資格取得にも取り組んでいる。今後は新代表の采配のもと、新たに地域との関係を築き、密接した運営が期待される事業所である。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
61 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果					
自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	つなげている	以前からの理念をそのまま活用しており、玄関に掲示している。利用者の人格尊重、自立した生活、地域との結びつきの3つが挙げられており、申し送り時には理念に触れて話し合い、代表から相手を尊重した声掛けなど重点的に指導している。以前からの職員は馴染みがあるが、新人には不十分だった。	繰り返し職員への伝達を行うために、スタッフルームやリビング、名札の裏など、目に付くところへの掲示を行ってはどうか。また、ミーティングの時の唱和など徐々に取り組みを広げる検討がなされることにも期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	お祭りや、近所の理容店を利用するなど交流している	昨年から新たに、区長や民生委員との交流を開始した。区長を通して地域との関わりも増えつつあり、次回からは香春神社のお祭りでお神輿にも来てもらうようお願いしている。近隣の住民とは日常的に挨拶を交わし差し入れなどを頂くこともある。区長も協力的で、事業所からも駐車場空きスペースの活用の提案などもしている。	試験的に今年は事業所内だけでソーメン流しを行ったが、次年度から地域の方にも案内した行事に広がることが望まれる。また、町内会活動への参加、地域情報の収集、保育園との交流や地域ボランティアの活用など、発展的な地域との関わりが作られることに期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	出来ている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	出た意見は積極的に受け入れ、採用している	会議は2か月に1回開催し、今年から、新たに区長に参加してもらい、以前からは役場、地域包括、他事業所の管理者などが来られている。入居者、家族の参加はなかった。入居者情報、行事報告などをしており、地域情報も会議時にいただくことが多い。会議での意見を改善に活かし、一緒に買い物に行くようにもなった。議事録は玄関に置いて閲覧公開できるようにしている。	家族への声掛け、参加がなかったので、入居者と共に呼びかけがなされることが望まれる。また、日頃の様子を見てもらうために、食事会形式や、行事との同日開催なども検討されてはどうか。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村の担当者とは関係が十分に築けている	直近で指定更新があり、頂いた指導に対して改善、報告を行った。役場の福祉課とは関係が深く、毎回運営推進会議にも参加してもらい、質問や相談があった時も電話や訪問によって気軽にやりとりしている。生活保護の方の受け入れもあり、担当ワーカーとも随時報告や相談をしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は行っていない	日中は玄関施錠はしておらず、自由に外に出ることができる。直近で離設のヒヤリハットがあったが、その後は玄関に鈴をつけ、見守り、声掛けを増やすことで今は落ち着いている。現状身体拘束の事例もなく、法人全体の研修で身体拘束に関する理解も進めている。言葉かけなども代表が変わってから注意するようになり、スピーチロックにつながらないよう気を付けている。	外部研修や内部研修の実施後に、報告書や研修記録を保全することで、見直しができるようになることが望まれる。

H27自己・外部評価表(GH香春)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	努めている		
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	出来ている	現状制度の活用はないが、管理者が中心となって学習を進めている。今年は事業所連絡会主催の研修があり、代表が参加し、社内での伝達も行った。必要には主に管理者が中心になって、法人の関係者とも相談して対応する体制である。	説明時に備えて、制度の資料やパンフレットなどが準備されることが望まれる。
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分に時間をかけ行っている		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	出来ている	半数程度の家族が面会に来ており、意見はその際に聞くことが多い。来られない方には電話で報告もしている。毎月、本人の写真を選んだものと、医療記録を送っており、家族にも喜ばれている。本人から要望が出てくることもあり、意見から買い物と一緒に行くようにもなった。	家族からの意見をさらに引き出していくため、アンケート調査なども検討されてはどうだろうか。また、訪問機会をもってもらうため、家族参加行事などの案内や出欠を伺ってもよいかも。行政の介護相談員についても情報収集がされることに期待したい。
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員とは時間をかけ、いろいろな話をしている	代表が変わって以降は職員と個別に話す機会も増やしており、以前より話しやすくなった。申し送りノートを使って所内の情報共有を行い、ユニットによっては2ヶ月に1回程度ミーティングをすることも。今回は職員からの提案によってソーメン流しも実施された。日頃何かあれば相談がしやすい雰囲気が作られている。	曜日や時期をある程度決めて、定期的なミーティングが、ユニット単位や事業所全体で行われていくことが望まれる。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	努めている		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	性別・年齢で採用を左右されることはなく、権利を重視している	職員は男女バランスよく配置され、20～40歳代と比較的若いスタッフが多い。現状までは無資格者も多かったが、今年からは資格取得を目指して取り組んでいる。休憩時間、場所も確保され、法人主催の3か月ごとの研修は職員にも案内があり、参加も出来ている。事業所内での懇親会もするようになり、横のつながりも出来て働きやすい職場環境づくりに取り組んでいる。	職員のスキルアップの機会をさらに設けていくために、外部研修の情報収集、案内、参加がなされていくことにも期待したい。

H27自己・外部評価表(GH香春)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	朝夕の申し送りで確実に伝えている	理念にも掲げている利用者の人権尊重に関して、申し送りなどで伝えている。人権そのものを取り上げるような研修はなかったが、虐待防止などの法人研修は行われた。近々、認知症実践者研修を受講する予定の職員が1名おり、学習が計画されている。	行政や、関連団体の人権に関しての研修の受講と、内部での資料回覧、伝達講習の実施が期待される。
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	出来ている		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	全職員ではないが行っている		
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	時間をかけ行っている		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	御家族とは時間をかけ要望等を聞き出している		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	支援を見極めている、もちろん他サービスを勧めることもある		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共に築いていっている		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	協力的でない御家族もおられるが、共に支える気持ちを持ち、できる限り行っている		

H27自己・外部評価表(GH香春)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	出来ている	以前からの知人が来る方、今まで通っていた馴染みの病院に行く方、家族の協力の下で定期的に外泊する方などもある。身寄りのない方から、遠い親類に会いたいという希望があがり、個別ケアで対応したこともあった。お墓参りなどでも要望があった際には積極的に対応に努めている。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	全員が輪に入れるように、創意工夫している		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	努めている		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	常に本人の意向を探り出し、把握している	アセスメントはケアマネが代表と協力して、以前から同じ様式を使って行っている。入居以降は半年ごとに、ケアチェック表を使って見直し、病院などの関係機関から情報提供を受けることもある。受け答えが難しい方は、家族に聞いたり、日頃の表情を見たり、職員から申し送りで意見を聞いたりして、以降の把握につなげている。	アセスメント情報にばらつきがあるので、事業所が主体となった基本情報、アセスメントの取得と、定期的で漏れの無い取り直しが望まれる。また申し送りなどであがってくる意見も追記していくことで、それぞれの情報が、より深まっていくことにも期待したい。
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	常に本人の意向を探り出し、把握している		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日三回のバイタルチェックに加え、身体状況は神経質に確認している		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	出来ている	申し送りで情報共有し、ケアプラン作成は主にケアマネと代表が取り組んでいる。プランは半年ごとに見直し、その際に担当者会議も開いている。家族の面会が少ないため、家族からは郵送で了承を得ることが多い。プランのファイルを記録と一緒に置くことで、職員も参照できるようにしている。	プラン内容の家族への説明を強化し、意見の反映がなされ、介護更新時などは担当者会議への参加も検討されてはどうか。また、事業所内でのプランを共有し、目標に沿ったケアが実践されていくために、目標と実施状況が紐づけされたモニタリングや、プランと記録が同時参照できるようなファイル管理などがなされていくことにも期待したい。

H27自己・外部評価表(GH香春)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	申し送りを確実にいき、実践している		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日々客観的に見る・考えることをいき、先読みの努力をしている		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	出来ている		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	出来ている	希望されれば、以前からのかかりつけ医の継続も可能で、提携医の場合は2週に1回の往診がなされている。他科受診の場合も事業所から通院支援をしており、看護師が出勤の時は看護師、いない際はヘルパーが対応している。個別の受診記録を管理しており、毎月報告もしている。訪問歯科の提携もあり、口腔ケアは全員に対して行っている。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常に様子観察をいき報告がある		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	出来ている		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いをいき、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	特に主治医と話し合いが出来ている	現代表に代わってからの看取りはなかった。重度化に対応する指針は作成しており、入居時に説明、同意を得ている。重度化の際には改めて医師立会いのもと説明を行う。できる限りの支援を行う方針で、提携医も24時間、365日の対応体制がとられている。	今後の対応に備えて、ターミナルケアの研修がなされていくことにも期待したい。

H27自己・外部評価表(GH香春)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	出来ている		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	スプリンクラーもあり、安全だとは思いますが、地域との協力体制の約束はない	年2回の訓練を日中想定で行い、うち1回は消防署の立会いでなされており、今回は11月が予定されている。備蓄物は水や缶詰を多少準備している。平屋づくりのため避難経路は多く、有事の際の心配は少ない。	夜間想定訓練の実施と、地域への訓練参加の声掛け、事前のアナウンスなどがなされていくことにも期待したい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ひとりひとりの人格を尊重し、行えている	個人ファイルのキャビネットには常にカギをかけて管理している。申し送りの際に代表から、理念に掲げる利用者の人格尊重を伝え、声掛けについても日頃から指導している。相手の表情や感情をくみ取り、相手を尊重したケアを目指している。	接遇やマナーに関する研修が行われることにも期待したい。また、個人写真の掲示や使用も含めた同意書の取り交わしがなされることも望まれる。
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	常に働きかけている		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来ている		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	出来ている		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	出来る人が率先し、メニューの変更や嗜好を凝らした食事の提供に心掛けている	法人施設の栄養士が作成するバランスに配慮されたメニューを使って、職員が入れ替わりで担当して調理を受け持っている。食材は配達や、入居者と一緒にスーパーでの買い物を行い、下ごしらえやお皿ふきなどを手伝ってもらうこともある。感想や要望も聞いており、焼き鳥や刺身を提供することもあった。職員は各自で持参したものを、同じ食卓で食事している。	検食を検討しており、職員も同じものを同じ時間に食べることで、さらに食事が楽しめるようになることが期待される。

H27自己・外部評価表(GH香春)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	常に把握・記録し行っている		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	行えない方も数名いるが、できる方には確実にしている		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人の排泄の間隔を把握し、トイレ誘導を行うとともに、全員の方にトイレで排泄してもらっている	ユニットごとに関しており、個別の排泄チェック表を管理している。水分摂取とともに、失禁、トイレ排泄などをチェックする。入居当初など、状態をみて、布パンツをベースにサービスしているが、徐々に状態悪化する方も多。声掛けなども羞恥心に配慮し、周囲にわからないように気を付けている。	職員それぞれからの自発的な、負担軽減の提案がなされることが望まれる。チェック表の様式や記録の仕方を見直して、時系列や期間での振り返り、改善に期待したい。
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘に関しては神経質に、毎回申し送りで確認し、対応している		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	物理的に無理なため行えていない	各ユニット共通の造りのユニットバスで、引き戸も大きく開き入りやすい。週3、4回程度、昼からの入浴だが入居者の重度化に伴い、転倒防止のためシャワーチェアを使ってのシャワー浴が多くなった。皮膚観察などは看護師とも協力して行い、入浴後の保湿剤なども個人の好みで準備している。	職員のスキルを上げ、環境、施設の整備を進め、安全に配慮しながらも湯船に入りたいという入居者の希望がかなえられることが望まれる。
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	出来ている		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	常に薬剤情報を確認し、ほとんど把握できている		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	出来ている		

H27自己・外部評価表(GH香春)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物など、希望に応じて同行支援を行っている	今年から外出機会を徐々に増やしており、日常的にも買い物などの同行などを始めた。全体行事としては近くの神社へのお花見に年1回行く程度である。法人系列の車両を使うことも可能になり、個別ケアでの対応を増やしている。車いすの方も近隣への外出は行い、敷地内や裏手の散歩などは気軽になされている。	バスハイクなどの外出行事も検討して、外に出る機会や楽しみがさらに提供されていくことが望まれる。
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	人数は本当に限られるが、自己管理が可能な方はされており、よく自販機でジュースを買われている		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	出来ている		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	空調の調節を行い、壁は白で統一している	事務室を中心に両側にほぼ正対称で各ユニットが配置されており、それぞれに入口がある。ホールは40畳、50畳とかなり広めで、ゆとりがある。季節の飾りつけや、絵画や写真などで賑やかに彩られ、テレビ周りのソファやダイニングテーブルなど、入居者も思い思いの場所で寛いでいた。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用スペースが比較的広いため、出来ている		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	出来ている	居室内にも手すりがつけられ、安全な移動に配慮される。介護ベッドやクローゼットが備え付けられ、床は府フローリング調のビニールマットで統一される。持ち込みも少なく、比較的シンプルな部屋作りがされており、今年からは希望すればテレビの持ち込みも出来るようにした。今はないが、畳にマットレスで休むことも可能である。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各所に手すりを設けている。必要に応じてその都度環境整備をしている		